

令和3年度 学校評価自己評価表 安芸太田町立上殿小学校

1学期

教育目標		ふるさとを大切にし、自ら学び、将来をたくましく生きぬく児童の育成						
学校経営の重点		○主体的な学びの育成 ○基礎基本の定着・活用 ○体験活動を通じた豊かな感性の育成 ○基本的生活習慣の確立						
中期経営目標		短期経営目標	担当	目標達成のための方策	評価指標	資料	1学期達成状況	1学期 最終コメント
確かな学力の定着	主体的で深い学びのできる児童を育成する。	学びに向かう力を高め、深い学びを育成する。	教務	深い学びのある単元づくり・授業づくりを通して、課題を発見する力、主体的に学ぶ姿勢、協同する力、課題解決をするための整理分析をする力を育てる。	児童アンケート肯定的回答80%以上。各単元で設定したルーブリック評価規準、B規準以上の児童の割合90%以上。	児童アンケート ノート ワークシート	3	児童アンケート①「学習のふりかえりをするときには、『もっと考えてみたいこと』『もっと調べてみたいこと』『もっと工夫してみたいこと』などを考えています。」の肯定的回答は、75%であった。②「『総合的な学習の時間、生活科』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。」の肯定的回答は、79%であった。各単元で設定したルーブリック評価規準、B規準以上の児童の割合は91%だった。①については低学年に否定的回答が多かった。ふりかえりのしかたを学習し、定着するよう指導していく。
		基礎基本の定着を図る。		教科等の特質に応じた見方、考え方を習得する授業改善を進める。常タイムや補充学習・家庭学習における基礎基本の力をつける取組を継続し、学力の向上を図る。	国語・算数の学期末・単元末テストの合計が期待平均以上の児童の割合70%以上。	単元末テスト 学期末テスト	4	期待平均点以上の児童の割合は、国語87%、算数78%である。最後まで粘り強く取組む力が伸びてきている。空欄が減ってきた。1学期の総復習を夏休みに仕組み、基礎学力の定着を図る。国語では、初見の文章に課題が見られた。音読や読書に取り組みせ、苦手意識を克服できるようにする。
豊かな心の育成	自分も人も大切にできる児童を育成する。	自己指導力を高める。	生活安全	・ルールや決め事の内容及びその意味を児童に周知する。 ・児童会で決めた月目標達成に向けて取り組むことを通して、より良い生活を送ろうとする意識を高める。	児童会月目標を意識して生活する児童の割合を80%以上にする。	児童会月目標の 反省結果	1	児童会の月目標達成率は、4月「気持ちの良いあいさつをする」が71%、5月「正しい言葉遣いをする」が58%、6月「姿勢を正す」が54%だった。達成できる目標を考えるさせることで達成感を持たせ、自己指導力を高めていく。
		自己肯定感を高める。		・児童理解の職員研修を行い、共通認識を持って児童へ関わる。 ・人との関わりの中で認め合う取組を仕組む。	児童アンケートにおける肯定的評価の割合を70%以上にする。	児童アンケート	4	児童アンケート「自分のいいところや得意なことを3つ言える。」「自分のことが好きです。」の肯定的回答は、それぞれ71%、75%であった。昨年度3学期は56%、64%だったのでどちらも向上している。今後も、肯定的評価をして自己肯定感を高めるようにする。
健やかな身体の育成	たくましい ^{からだ} 身体を持った児童を育成する。	基本的生活習慣を確立する。	生活安全	・ノーメディアを中心に取り組み、規則正しい生活リズムの確立を目指す。	・学期に1回ノーメディアの取組を行い、自分が立てた目標を達成できた児童の割合を80%以上にする。	がんばりカード	2	6月28日から7月4日の1週間をノーメディア週間に位置付け取組中のため、達成状況はまだわからない。5つのコースの中から1つコースを選び、1週間の中でいつ取り組むかを決めて、家族とともにチャレンジしているところである。事前の保護者アンケートでは87%の家庭がルールを決めて電子メディアを使わせていると回答しているが、50%が時間が守れないときがあると回答しており、利用状況には課題がある。
		体力の向上を図る。		・めあてを持たせて運動に取り組ませる。 ・業間運動の充実や体育科授業改善を図る。	・1学期は、一輪車カードから各自1つの種目を選び、その種目の達成率を80%以上にする。 ・2、3学期は、新体カテストで一昨年度の県平均を下回った種目(2種目)において、前回記録を上回った児童の割合を80%以上にする。	一輪車カード 新体カテスト	2	6月30日までに自分が決めた目標を達成した児童の割合は67%だった。いろいろな一輪車の技に挑戦できるように一輪車カードを準備し、体育科や業間休憩に練習するようにさせた。今後も、運動会に向けて練習することにより体力向上を図る。
開かれた学校づくり	信頼される学校づくりを推進する。	情報発信を積極的に行い、保護者・地域の理解を深める。	総務	・学校からの便りやHPの更新を通して、情報提供を行う。 ・来校の機会を通して、互いの理解を深める。	学期ごとに行う保護者アンケートにおいて、肯定的な評価を90%以上にする。	保護者アンケート	3	保護者アンケートで「学校からの便りやホームページ、PTA集会等を通して学校の様子がよくわかる。」という項目は94%だった。学校での取組の様子を、学校便りやHP、学級通信を通して情報発信し、理解を得ることができたと思う。
		働き方改革を推進する。		・優先順位をつけて効率的に業務を進めることの習慣化を図る。 ・日々の業務や学校行事等の持ち方を見直し、児童と向き合う時間を確保する。	指針に沿って、次の数値以下にする。 勤務時間外在校時間 月45時間	勤務時間外在校 時間記録表	1	勤務時間外在校時間 月45時間の達成状況は、4月から6月において47.6%である。校内研修等を通して働き方を見直し、業務改善を継続する。勤務時間外在校時間を減らし、優先順位をつけながら業務を進める意識を持って日々の業務に取り組んでいる。コロナ禍前の令和元年度と本年度の4から6月期を比較すると、勤務時間外在校時間は26%縮減している。

評価基準

4:100%達成 3:80%おおむね達成 2:60%以上達成 1:60%未満